

# 景気動向調査報告書

令和3年10月末調査

この調査は、岡谷市の基幹産業である製造6業種（精密、機械、電気、計量、表面処理、  
鋳造）の企業の皆様のご協力により、今期（令和3年10月末）を基準とした業況等につい  
てまとめた報告書です。

岡谷市産業振興部工業振興課・岡谷商工会議所



- 調査実施期間

前年同期	前 期	今 期	来 期
令和2年10月	令和3年4月	令和3年10月	令和4年4月

- 調査業種及び調査企業

(件数)

調査業種	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造	合計
調査企業数	40	26	11	7	13	3	100
回答企業数	40	26	11	7	13	3	100

- 従業員数

人数	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人	40～49人	50～99人	100人～	合計
企業数	32社 (32.0%)	11社 (11.0%)	8社 (8.0%)	10社 (10.0%)	13社 (13.0%)	18社 (18.0%)	8社 (8.0%)	100社 (100%)

## 調査結果のポイント

- 本市製造業の業況DIは、令和2年度の下半期以降、半導体製造部品や自動車関連部品等の受注が好調又は横ばいで推移していることから、2期連続のプラス水準となっています。
- 他方、前期から原材料仕入価格の上昇が続き、その一方で、製品単価の伸びが小幅に推移していることから、業況DIはプラス水準であるものの、収益DIはマイナス水準に転じています。
- なお、原材料仕入価格は、来期も高い水準を維持する見通しのため、今後の経営面への影響が懸念されます。
- 経営上の問題点については、前年同期(R2年10月)は「生産・売上・受注の伸び悩み」が最も多く、次いで「設備の老朽化」「製品・加工賃の料金安」となりましたが、今期は「原材料等の価格の上昇」が最も多く、次いで「人手不足・求人難」と回答する割合が半数を占める結果となりました。

## 《令和3年10月末の岡谷市の景気動向》

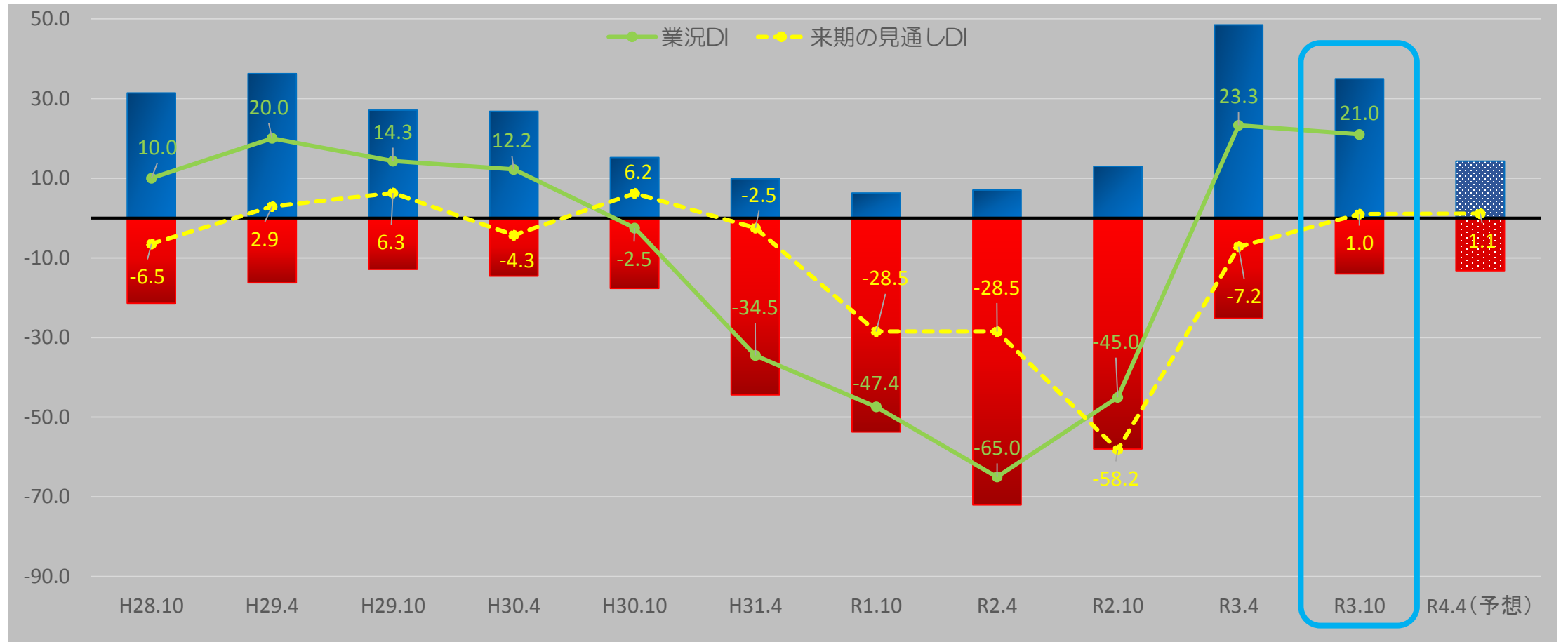
業況、生産額、受注額等で前期に対して不変と回答した企業が多く、前期と概ね同水準で推移しています。なお、業種別の業況DIをみると、各業種とも改善傾向であり、全体的に回復基調であることがうかがえます。

## 《来期の見通し》

来期(6ヵ月後)は、業況、生産額、受注額ともに、プラス水準を維持する見通しであるものの、材料調達難や原材料の高騰等の影響が続くことが懸念され、先行きが不透明な状況にあります。

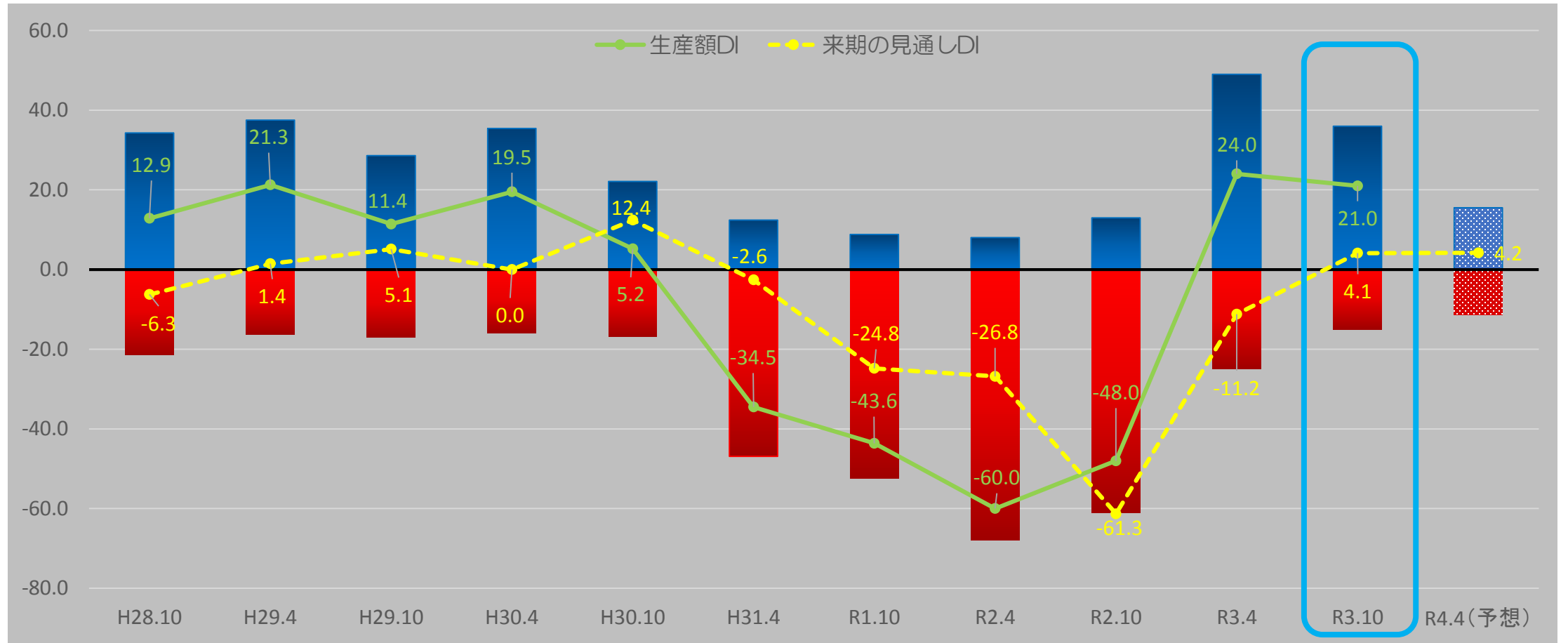
※棒グラフのプラス側は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合、マイナス側は悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合です。折れ線グラフ(DI)は好転(増加、上昇、余裕)の企業の割合から悪化(減少、低下、窮屈)の企業の割合を引いた差です。折れ線グラフ(来期の見通し)は調査時の来期(6ヵ月後)のDI値です。

# ①業況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



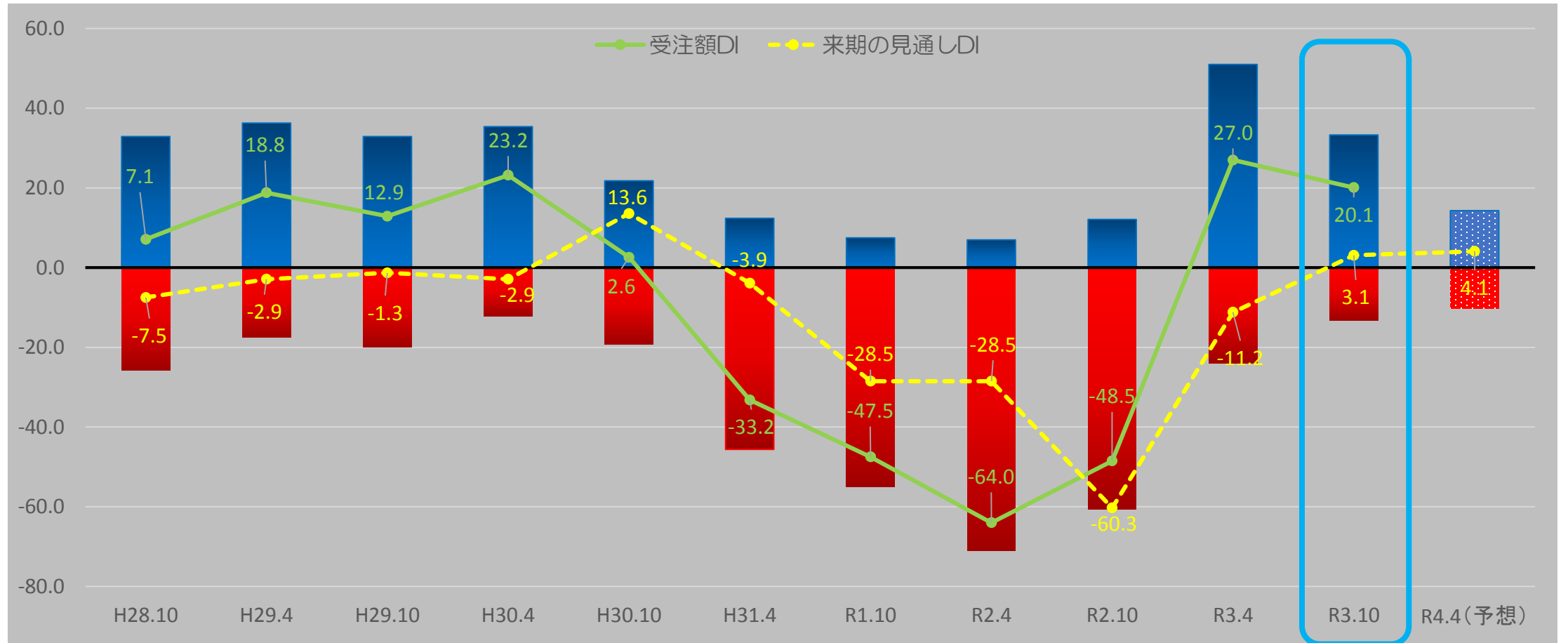
前期と比べたDIは21.0ポイントとなり、前期の23.3ポイントより2.3ポイント悪化しました。  
 また、来期の見通しDIは1.1ポイントとなり、前期の1.0ポイントより0.1ポイント好転しました。

## ②生産額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは21.0ポイントとなり、前期の24.0ポイントより3.0ポイント低下しました。  
また、来期の見通しDIは4.2ポイントとなり、前期の4.1ポイントより0.1ポイント増加しました。

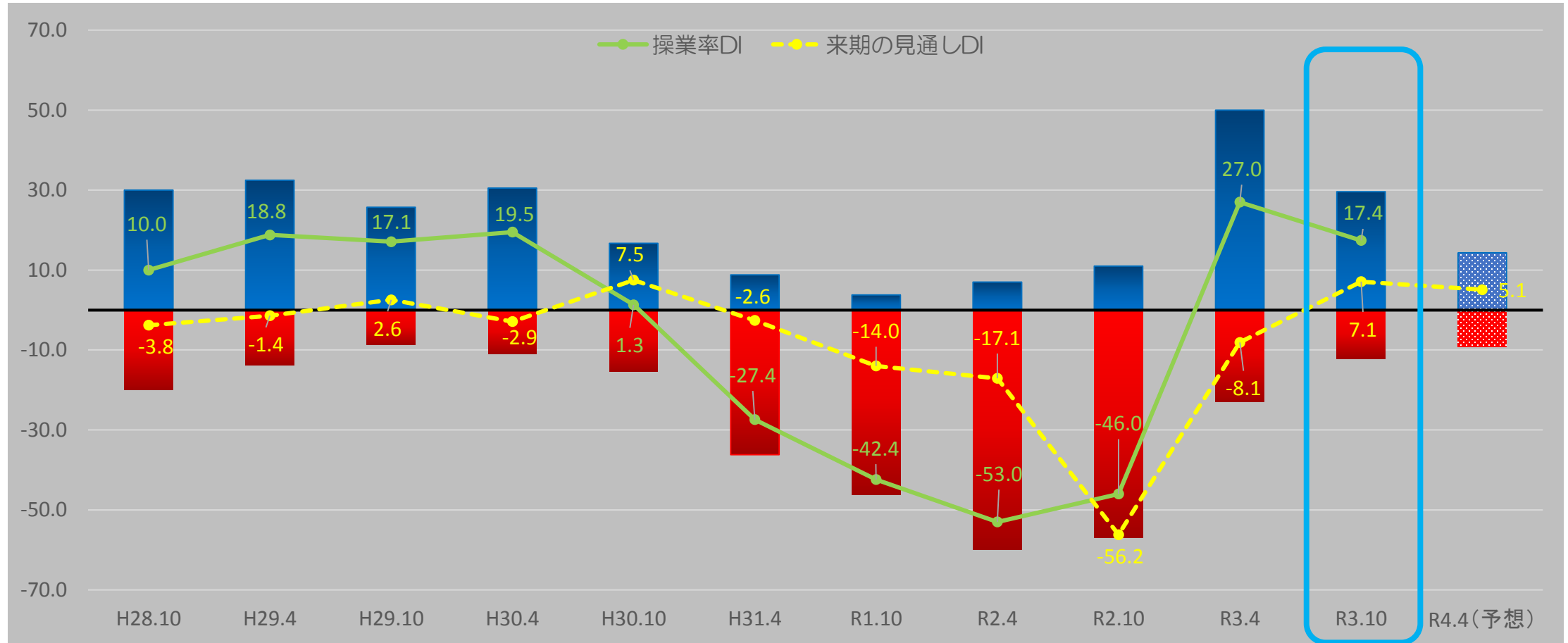
### ③受注額DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは20.1ポイントとなり、前期の27.0ポイントより6.9ポイント減少しました。  
また、来期の見通しDIは4.1ポイントとなり、前期の3.1ポイントより1.0ポイント増加しました。

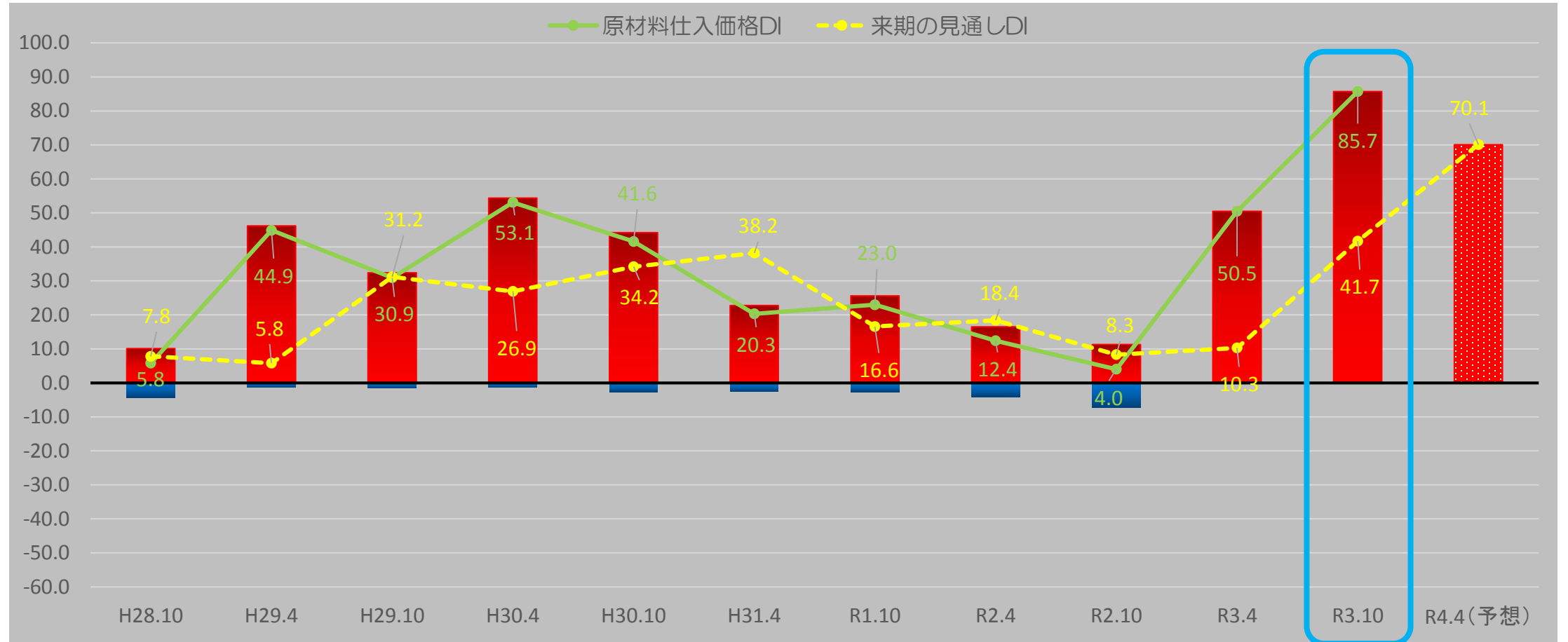


#### ④ 操業率DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



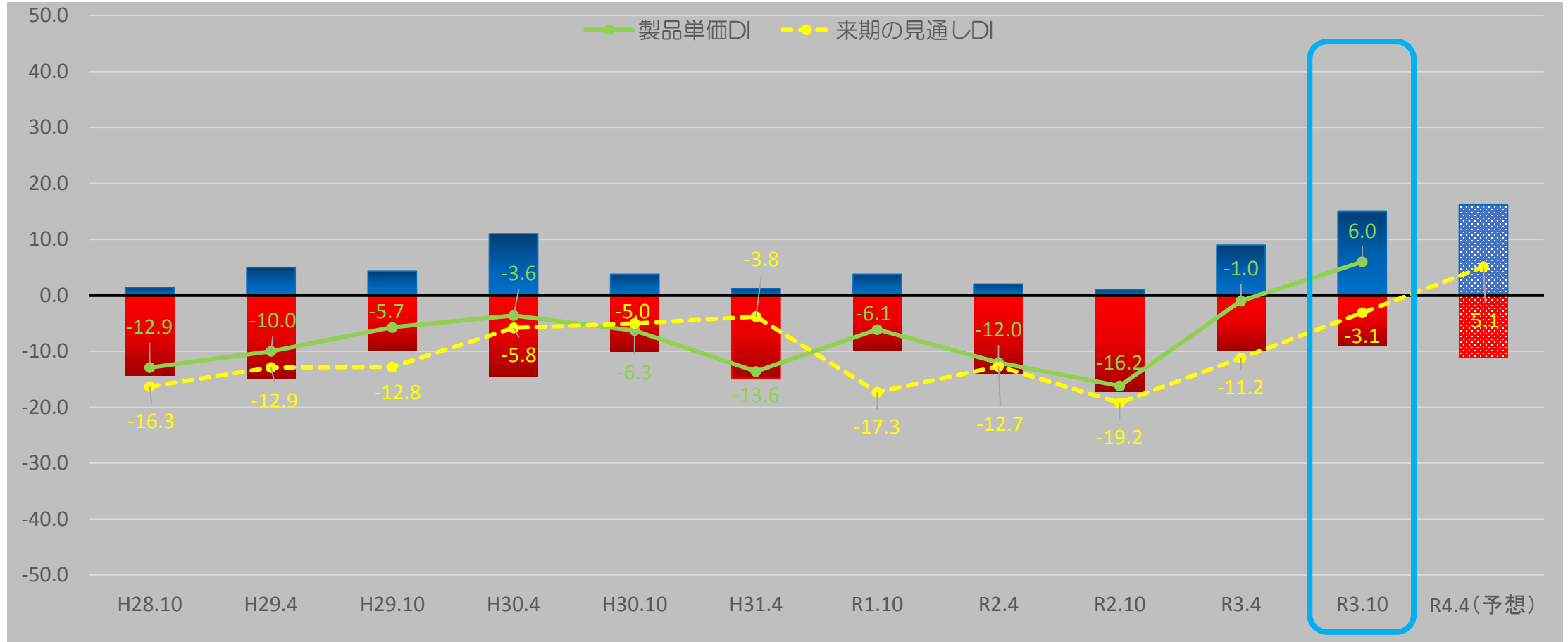
前期と比べたDIは、17.4ポイントとなり、前期の27.0ポイントより9.6ポイント低下しました。  
 また、来期の見通しDIは、5.1ポイントとなり、前期の7.1ポイントより2.0ポイント低下しました。

### ⑤原材料仕入価格DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



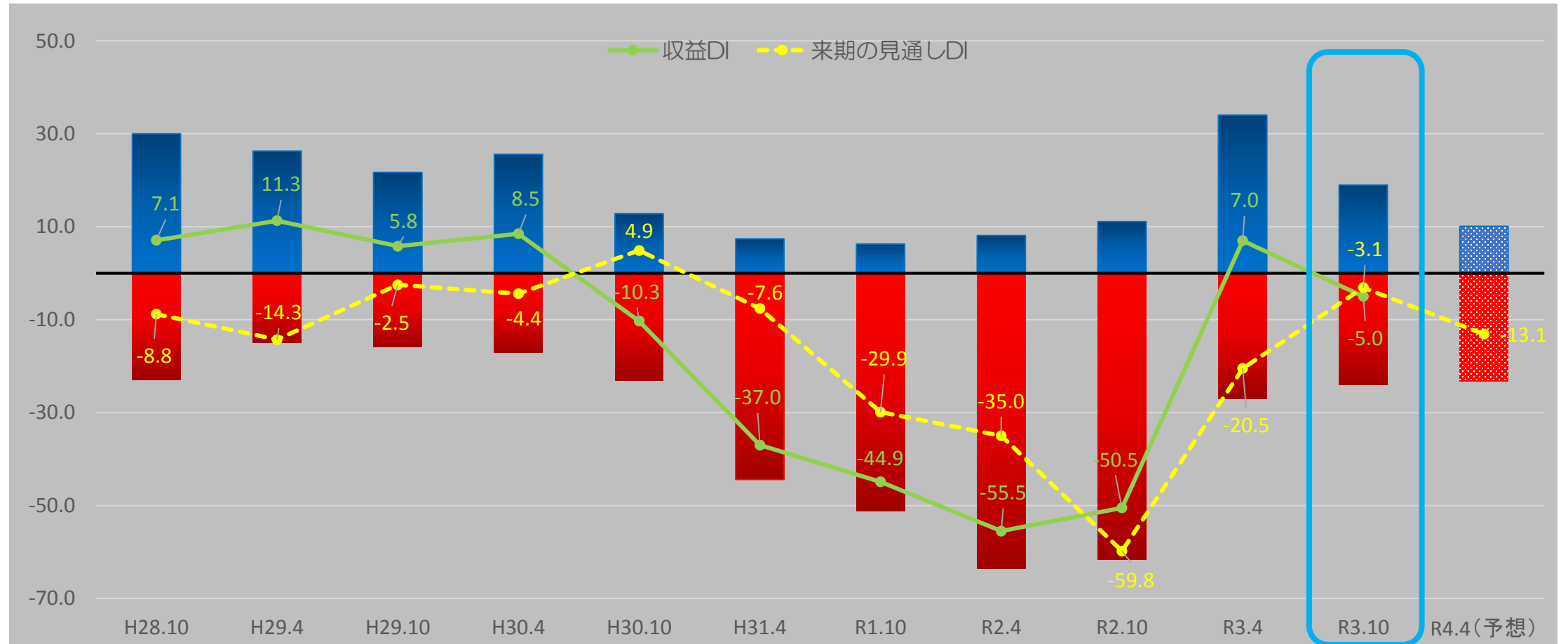
前期と比べたDIは、85.7ポイントとなり、前期の50.5ポイントより35.2ポイント増加しました。  
 また、来期の見通しDIは、70.1ポイントとなり、前期の41.7ポイントより28.4ポイント増加しました。

## ⑥製品単価DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



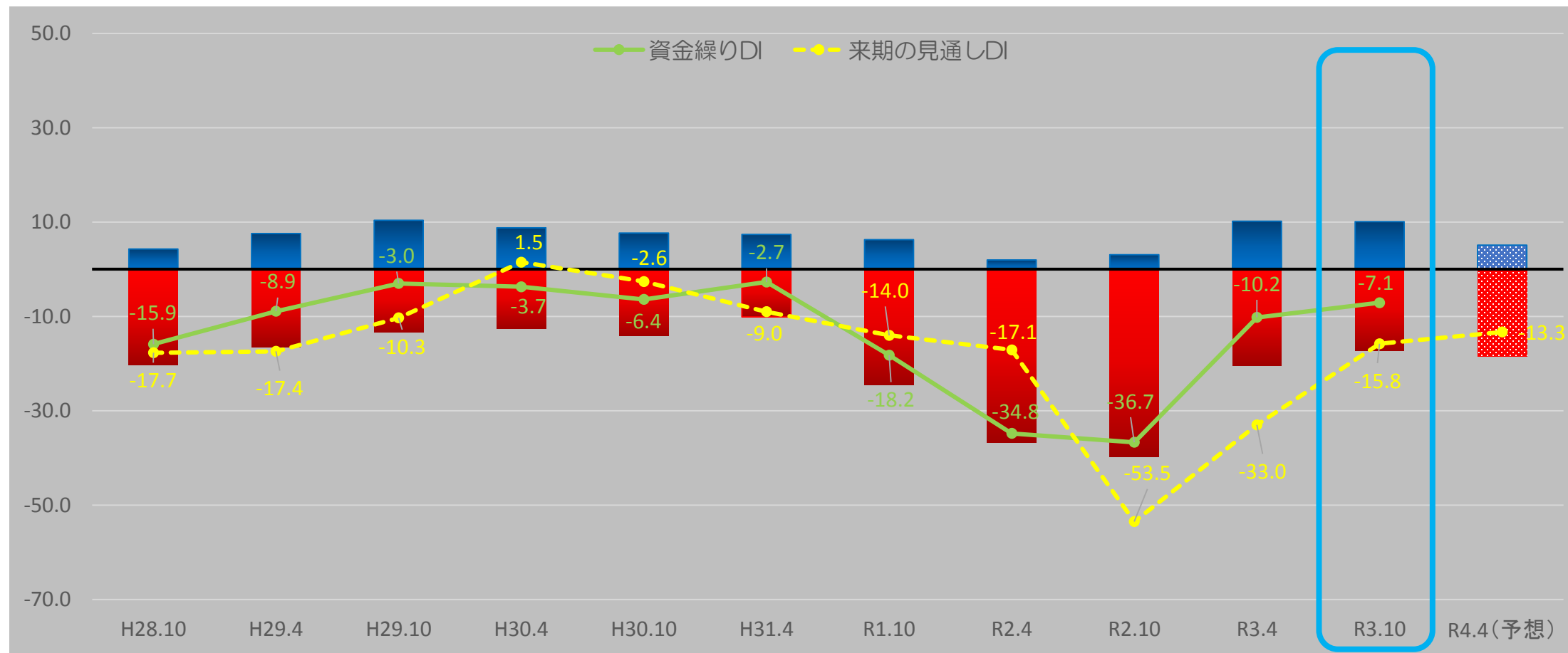
前期と比べたDIは、6.0ポイントとなり、前期の▲1.0ポイントより7.0ポイント上昇しました。  
また、来期の見通しDIは、5.1ポイントとなり、前期の▲3.1ポイントより8.2ポイント上昇しました。

## ⑦収益DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



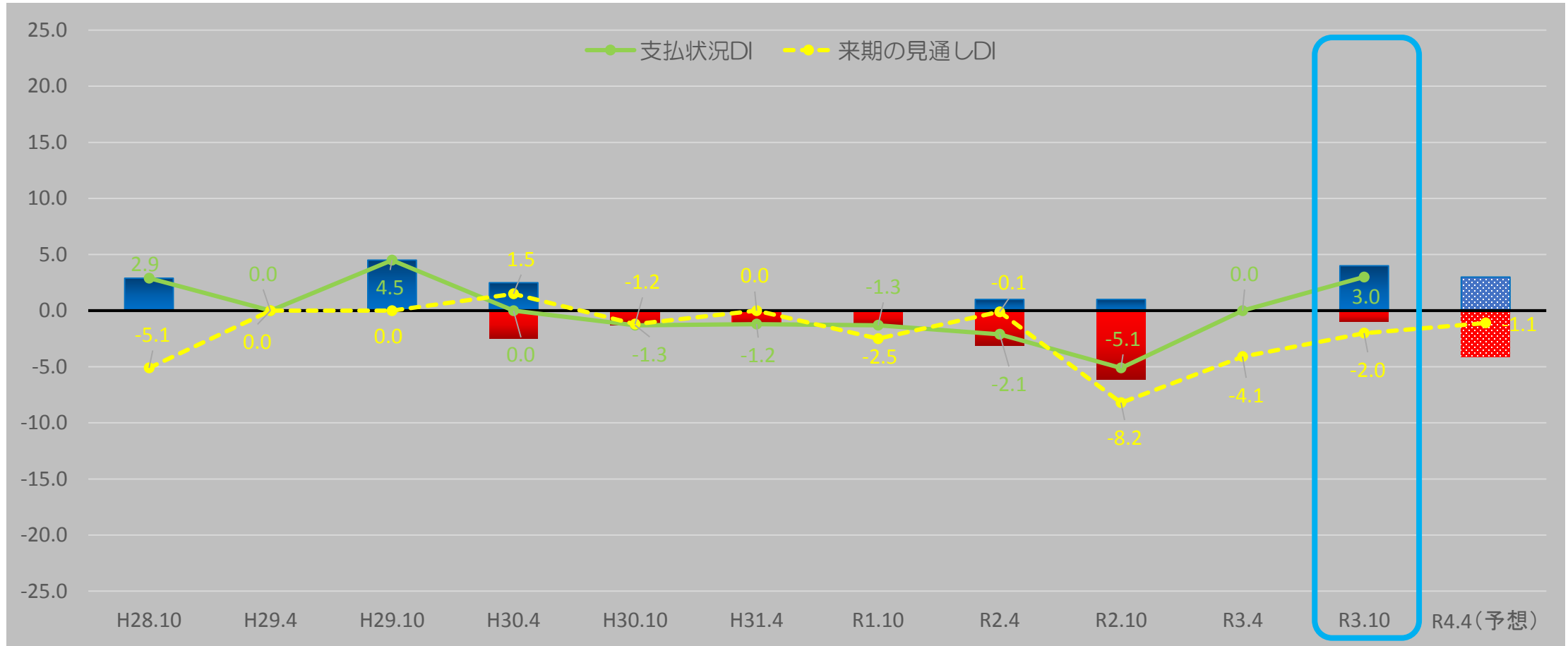
前期と比べたDIは▲5.0ポイントとなり、前期の7.0ポイントより12.0ポイント減少しました。  
また、来期の見通しDIは▲13.1ポイントとなり、前期の▲3.1ポイントより10.0ポイント減少しました。

## ⑧資金繰りDI【前期(6ヶ月前)に比べて】



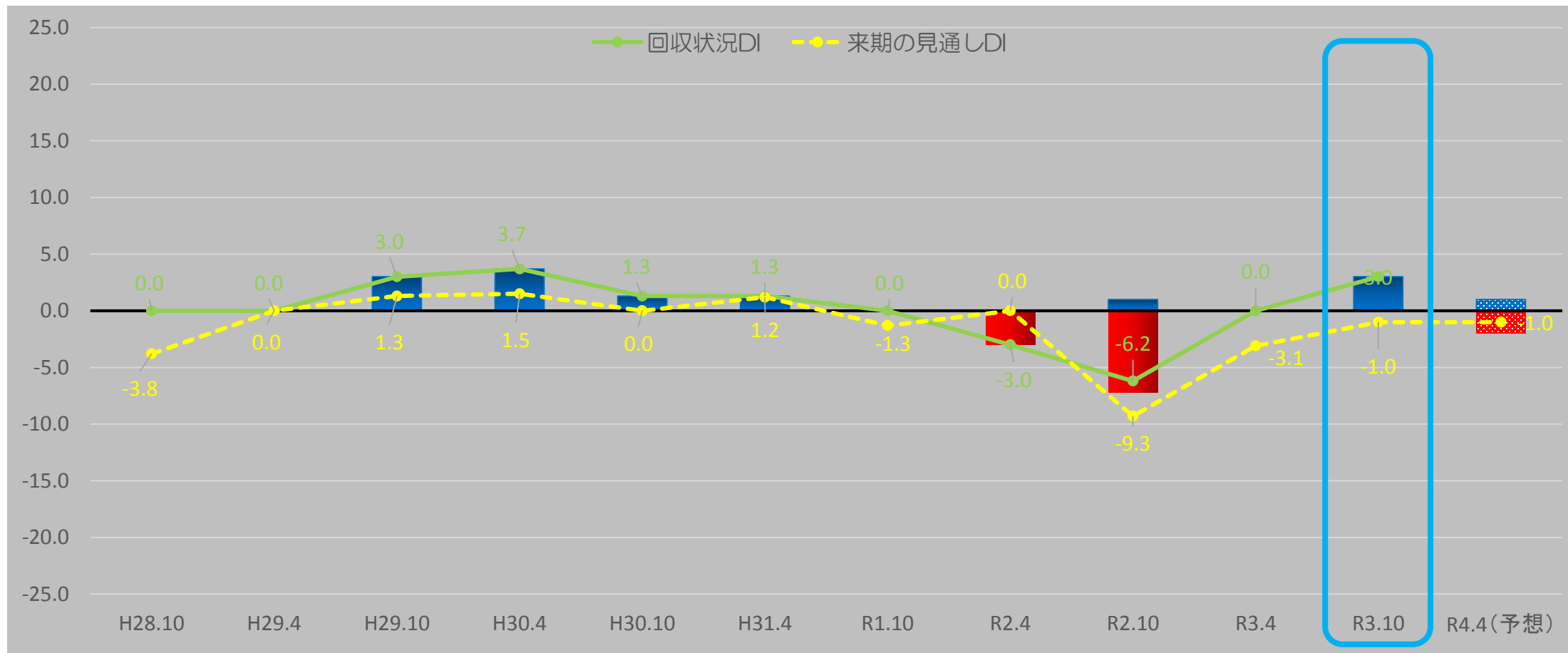
前期と比べたDIは、▲7.1ポイントとなり、前期の▲10.2ポイントより3.1ポイント上昇しました。  
また、来期の見通しDIは、▲13.3ポイントとなり、前期の▲10.2ポイントより3.1ポイント低下しました。

### ⑨支払状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは、3.0ポイントとなり、前期の0.0ポイントより3.0ポイント好転しました。  
 また、来期の見通しDIは、▲1.1ポイントとなり、前期の▲2.0ポイントより0.9ポイント好転しました。

### ⑩回収状況DI【前期(6ヶ月前)に比べて】



前期と比べたDIは、3.0ポイントで前期の0.0ポイントより3.0ポイント好転としました。  
 また、来期の見通しDIは、▲1.0ポイントとなり、前期の▲1.0ポイントと同等でした。

⑪ 今期の業種別業況DI

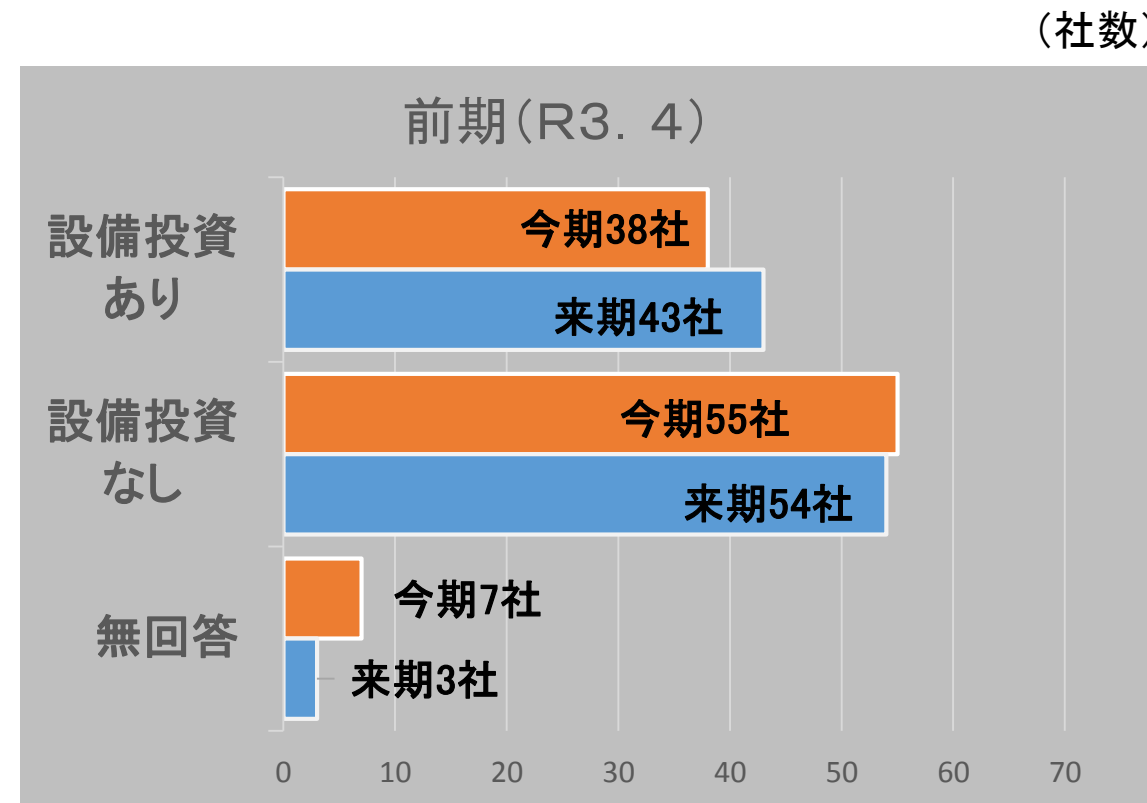
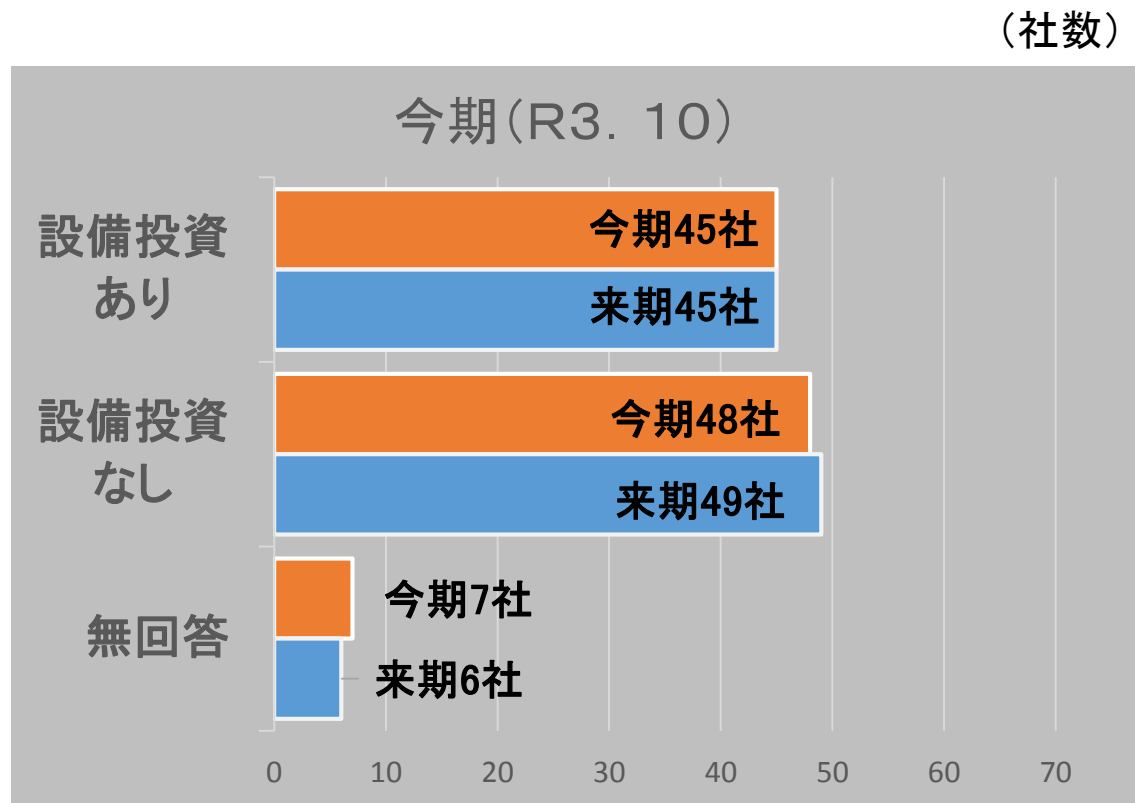
	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造
前期に比して	15.2	26.9	27.4	14.4	30.9	0.0
前年同期に比して	27.5	40.0	27.4	0.1	30.9	100.0



## ⑫設備投資について

調査企業数: 100社

・設備投資の状況について



設備投資を行っている(計画している)と回答した企業が、今期45社 来期45社となり、前期より増加しています。

⑬経営上の問題点(複数回答)

調査企業数:100社

項目	今期(R3. 10)			前年同期(R2. 10)			順位 変動	前年同期比 (ポイント)
	回答数	回答 割合	順位	回答数	回答 割合	順位		
原材料等の価格の上昇	67社/100社	67.0%	①	13社/100社	13.0%	⑥	↑	54.0
人手不足・求人難	50社/100社	50.0%	②	18社/100社	18.0%	④	↑	32.0
設備の狭小・老朽化	31社/100社	31.0%	③	38社/100社	38.0%	②	↓	▲7.0
生産・売上・受注の伸び悩み	28社/100社	28.0%	④	78社/100社	78.0%	①	↓	▲50.0
製品・加工賃の料金安	24社/100社	24.0%	⑤	26社/100社	26.0%	③	↓	▲2.0
後継者の不在	12社/100社	12.0%	⑥	13社/100社	13.0%	⑥	↔	▲1.0

令和2年10月調査では、新型コロナウイルス感染症の影響「生産・売上・受注の伸び悩み」が最も多かったが、今期は、受注等が回復する一方で、生産国の情勢による原材料価格の高騰を問題点とする企業が大幅に増加するとともに、業務量の増加に対する人員の確保が不十分となり「人手不足・求人難」が課題となっています。

※1 ○数字は、回答数による順位

※2 前期(R3. 4)は当設問がないため、前年同期との比較

⑭今後の販路開拓の実施方法について

調査企業数: 100社

項目	今期(R3. 10)			前期(R3. 4)			順位変動	前期比ポイント
	回答数	回答割合	順位	回答数	回答割合	順位		
企業訪問による営業活動	38社／100社	38.0%	①	30社／100社	30.0%	④	↑	8.0
特になし	29社／100社	29.0%	②	21社／100社	21.0%	⑥	↑	8.0
ホームページリニューアル	27社／100社	27.0%	③	34社／100社	34.0%	②	↓	▲7.0
取引企業等を通じたあっせん・紹介	24社／100社	24.0%	④	39社／100社	39.0%	①	↓	▲15.0
オンラインによる営業活動	23社／100社	23.0%	⑤	26社／100社	26.0%	⑤	↔	▲3.0
展示会に出展	23社／100社	23.0%	⑤	31社／100社	31.0%	③	↓	▲8.0

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、感染リスクが低減したことで、対面での「企業訪問による営業活動」を再開する企業が増加していますが、展示会への出展についてはクラスター感染の懸念から伸び悩んでいます。

※○数字は、回答数による順位

⑮環境への取組について

調査企業数:100社

導入済み

導入予定・検討

導入済み	回答数	回答割合	順位	導入予定	回答数	回答割合	順位
節電・節水	70社／100社	70.0%	①	節電・節水	34社／100社	34.0%	①
エコカーの導入	22社／100社	22.0%	②	CO2削減が見込める機械・設備の導入	20社／100社	20.0%	②
CO2削減が見込める機械・設備の導入	21社／100社	21.0%	③	エコカーの導入	15社／100社	15.0%	③
環境に対する新しい取組	11社／100社	11.0%	④	SDGs登録事業	15社／100社	15.0%	③
SDGs登録事業	10社／100社	10.0%	⑤	環境に対する新しい取組	14社／100社	14.0%	⑤
その他	4社／100社	4.0%	⑥	その他	4社／100社	4.0%	⑥

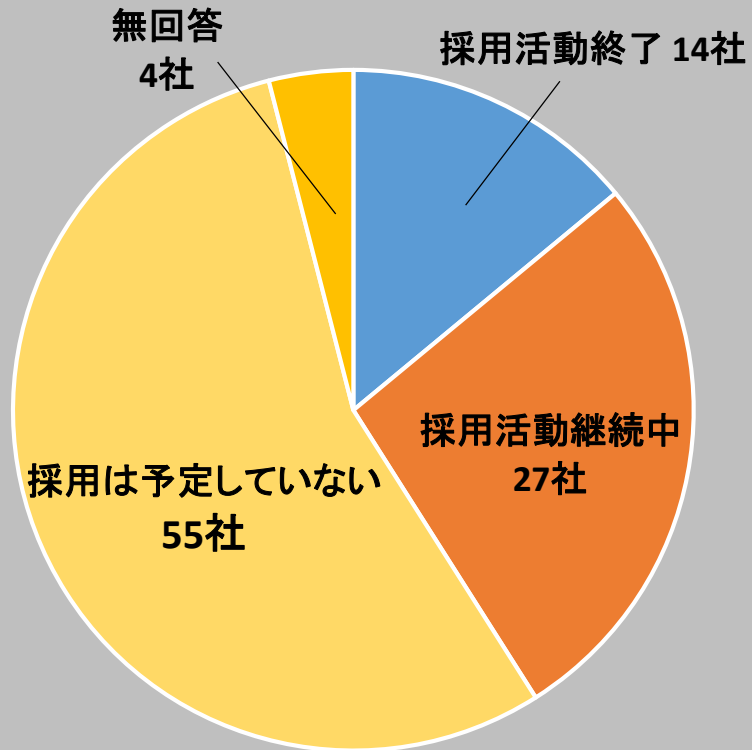
環境への取組として、比較的容易に導入が可能な「節電・節水」が「導入済み」、「導入予定・検討」ともに最も多い結果となりました。

また、CO2削減が見込める機械・設備を導入している企業は21社、導入を検討している企業は20社となりました。

※○数字は、回答数による順位

## ⑩2022年新規学卒者の採用活動状況

2022年新規学卒者の採用活動状況



2022年新規学卒者の採用活動状況(業種別割合)

	精密	機械	電気	計量	表面処理	鋳造
採用活動終了	20.0%	7.6%	27.2%	14.2%	0%	0%
採用活動継続中	27.5%	26.9%	18.1%	14.2%	38.4%	33.3%
採用は予定していない	50.0%	61.5%	54.5%	57.1%	61.5%	33.3%
無回答	2.5%	3.8%	0%	14.2%	0%	33.3%

新規学卒者の採用活動を終了した、あるいは採用活動継続中と回答した企業は41社となり、採用活動を終了した企業のうち、充足したと回答した企業は8社となりました。